

沖縄県知事選挙での歴史的勝利について（談話）

2018年10月1日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

9月30日におこなわれた沖縄県知事選挙で、翁長前知事の志を継いで辺野古新基地反対を掲げた「オール沖縄」の玉城デニーさんが相手候補に8万以上の大差で勝利したことを心から喜び、沖縄県民の勇氣ある決断に敬意を表します。

今度の選挙は、翁長前知事の急逝によるもので、短期間のたたかいでしたが、沖縄県民の団結とそれに連帯する全国の力によって、安倍政権の介入をはねのけ、見事な勝利を勝ち取りました。

私たちは、安倍政権が、「新基地ノー」の沖縄県民の意思に従って辺野古新基地建設を断念し、普天間基地の即時閉鎖、撤去を求める立場で米国と交渉するよう改めて求めます。

今回の勝利をもたらした第1の力は、翁長県政の継承をかかげた玉城デニーさんによる立候補への決断と「オール沖縄」の団結したたたかいです。

選挙戦の中で、相手候補が辺野古新基地問題の争点隠しをはかったにもかかわらず、有権者が基地問題を最大の争点ととらえ候補者選択の基準としました。また、翁長知事がすすめた基地依存からの脱却と自立した経済をめざす「誇りある豊かさ」の方向が県民に支持されたことは重要です。

第2は、菅官房長官の4回の沖縄入りなど、安倍政権が権力を総動員したなりふり構わぬ介入をおこないましたが、これを拒否した沖縄県民の変わらぬ決意です。安倍政権は、民意への介入は受け入れられないことを知るべきです。

第3は、全国各地で沖縄連帯集会が開かれるなど、沖縄県知事選挙を自分たちの問題として取り組む行動がかつてなく広がったことです。このような取り組みは、沖縄県民を激励するとともに、9条改憲など「戦争する国」にむけて暴走する政権とのたたかいで強い連帯を示しました。

このような結果にもかかわらず安倍政権は、翁長県政のおこなった辺野古埋立て承認取り消しに対する法的対抗措置を検討するなど、あくまで辺野古新基地建設を強行しようとしています。

私たちは、今回の県知事選挙が築いた重要な到達点をふまえ、辺野古新基地建設を許さず、普天間基地の無条件返還を実現するたたかいに引き続き全力をあげる決意を表明します。

以上